

## 校長室から応援メッセージ(その4)

令和6年9月3日(火)

### 浪人生としての心意気

皆さん、こんにちは。相変わらずの猛暑と不思議な動きの台風とで、不順で厄介な天候が続いています。それでも季節と暦は確実に進み、明後日から後期授業が始まります。いつも捉えどころのないメッセージで恐縮ですが、今回も自分の気持ちに正直に3分間のメッセージを申し上げます。

遠藤周作さんという作家(故人)の『ただいま浪人』という小説があります。私は高校時代、この作家の小説を好んで読んでいましたが、この本は浪人生になったら読もうと決めていました。そのため、というわけではありませんが、浪人生になって、それを待っていたかのようにさっそく読みました。忘れられない一冊です。

予備校に通う弟と会社に勤める姉が主人公で、姉は年配の舞台俳優との恋愛と、両親の望む見合い結婚との間で気持ちが揺れます。浪人とは、辞書には、本籍地を離れて流浪する者とあります。本籍地を離れる、これを自立と考えると、浪人とは自立する場を求めてさまよう人、と考えられます。

自分の現状に満足しきっている人はほとんどいないと思います(もしいても、私はそういう人にはあまり会いたくないです)。皆が少なからず自分を疑い、歩む道を迷っていると思います。45年前、予備校を卒業し、随分いい歳になった私ですが、未だに社会の中、家庭の中で、居場所を求めてウロウロさまよっています。だからこそ、ほんの些細なことで幸せな気分になれるのだ、とも思います。

さて皆さんは今まさに「ただいま浪人」です。これは大学生、社会人になっても同じです。人生はずっと浪人としてあるしかない…。後期もテキストとにらめっこの日々になりますが、浪人生としての心意気を生涯にわたって持ち続ける、その一歩を踏み出している、そういう覚悟で頑張ってください。

浪人生としての心意気、それは「自分を信じること」だと考えます。心配や不安な気持ちは金庫にしまい込み、一日一歩、自分を信じて進んでください。たとえ自分の歩みが実感できなくても、そもそも自分の一部になった知識は、それが身に付いたことを実感できないものです。一日一歩。やがてここから遥か遠く進み、それでもただ無心にテキストに向かい続ける皆さん、そんな皆さんを私はここからそっと静かに応援しています。健闘を祈ります。